



# 成隣だより

平成28年9月30日  
第6号  
昭島市立成隣小学校  
校長 加賀田 真理

## 「目力」と「残心」

校長 加賀田 真理

いよいよ今年度の運動会が「全力！集中！感動！本気の成隣みせてやる!!」のスローガンのもと、本校の校庭で行われます。

今年の運動会練習は、台風などの影響もあり、あまり天候に恵まれずに進めることとなってしまいました。指導する教員たちも、お天気とにらめっこをしながら練習のスケジュールを組み替え、心と技を一步ずつ高める指導を行ってきました。しかし、そんな条件が整わない中でも、子供たちは元気いっぱい練習に取り組み、自分の限界に挑戦しながらがんばっています。

運動会当日は、自分が今できる最高の力や技を発揮して活躍し、輝いてほしいと思います。

運動会で見せてほしい「姿」について、子供たちには「目力（めじから）」と「残心（ざんしん）」という言葉を使いながら説明しました。

「目力」については、顔を上げて“目から光線が出るくらい”しっかりと話す人の顔を見て話を聞いてほしいと考えています。「みんなの目から出た光線で、話す人の顔を照らしてほしい。」と伝えました。「目は口ほどにものを言う。」という言葉があります。「やる気」や「真剣に取り組む姿勢」を“目の輝き”でも表現してもらいたいと思います。

また、「残心」についても話しました。「残心」は武道で使われる言葉です。勝負がついた後にも一喜一憂せず、最後まで戦う姿勢を崩さない強い意志を表現した言葉です。1964年の東京オリンピックでサッカー日本代表を率いて活躍し「日本サッカーの父」と呼ばれているデットマー・クラマー氏も当時の日本代表の選手たちを「残心」の言葉を使って鼓舞したと聞いています。

具体的な姿としては、閉会式の話を書くときの姿勢や態度のことで話をしました。勝負ごとですので、残念ながら運動会終了時には、半数の子供たちが勝ち、半数の子供たちが負けます。勝負は時の運とも言い、努力やがんばりがそのまま結果に反映されない場合もあります。残酷なようですが、現実として勝ち負けが明確になります。

閉会式では最初に成績発表があります。そのときに勝った子供たちは、うれしくてうきうきするでしょうし、負けた子供たちは、がっかりとすることでしょう。この1か月の練習の疲れや運動会当日のがんばりで心も体もくたびれ、くたくたになっているときに、残念な結果をつきつけられることは本当につらいと思います。でも、そんなときにこそ、顔を上げて、胸を張って、堂々と最後までしっかりした態度で立っていてほしいのです。自分のがんばりや努力に対して誇りをもって胸を張り、結果から逃げない姿勢を示してほしいと思います。

人生には、苦しいこと、悲しいこと、願いが必ずしも叶わないことなど、つらい場面に遭遇することが必ずあるでしょう。でも、ひとつひとつの結果に喜びすぎず、悲しみすぎず、自分の努力やがんばりを振り返り、次の活動へと結び付けていくたくましさも、運動会から学んでほしいと思います。クラマー氏も「**タイムアップの笛は、次の試合へのキックオフの笛である。**」と述べています。

勝っても負けても、閉会式で胸を張って堂々と立っていることができたなら、限界に挑戦し、力を出し尽くした競技・演技に負けないくらい大きな拍手を子供たちに贈ってあげてください。

当日、皆様のご来場を心よりお待ちしております。